教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 講師　　氏名： 玉腰　和典

研究分野	研究内容のキーワード
保健体育科教育学	身体運動文化、戦術・技術認識、学習指導の系統性、学習集団形成、教材・教具、カリキュラム
学位	最終学歴
博士（人間発達学、愛知県立大学）	愛知県立大学人間発達学研究科人間発達学専攻　修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1.佐伯聡史・玉腰和典編著『縄とび運動教材「連鎖交互とび」の体育授業づくり：技のweb動画つき！』（富山大学出版会）	2023年3月	佐伯聡史氏が発展させた連鎖交互とびを、現場教師らと共同研究した成果をふまえ、小・中学校の保健体育授業の指導書を発行した。
2.木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤共編著『新版　初等体育科教育の研究』（学術図書出版）	2018年4月1日	体育教員養成課程で活用する教科書を共同研究者らとともに作成した。
3.学校体育研究同志会編『スポーツの主人公を育てる保健・体育の授業づくり－指導案の基本とプラン集－』（創文企画）	2018年3月23日	体育教員養成課程で活用する教科書を共同研究者らとともに作成した。
4.小学校体育におけるネット型教材の作成	2014年10月～2019年3月	5年間（1年度に1回、計5回の実践研究）にわたり現場教師と協同で実践研究し、中学校教材として開発されたホールディングバレーボールを参考にして、小学校版の教材を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.学校現場での指導助言	2024年11月29日	富山大学教育学部附属中学校　令和6年度公開授業保健体育科指導助言者（中1ホールディングバレーボール）
2.学校現場での指導助言	2024年6月10日	富山大学教育学部附属小学校2024年度公開授業研修会保健教育（小6・がん教育）共同研究者
3.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2024年4月28日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（春フェスタ）バレーボールでグループ学習分科会講師（愛知淑徳大学）
4.学校現場での指導助言	2023年12月8日	富山大学教育学部附属小学校　公開授業研修会体育科（小2体つくり運動・すもう遊び）共同研究者
5.学校現場での指導助言	2023年11月2日	富山大学教育学部附属小学校　公開授業研修会保健教育（小3健康な生活）共同研究者
6.学校現場と大学の連携事業「出張授業」	2023年7月13日	高校2年生を対象とした体育理論（スポーツ文化）の授業（富山県立北部高等学校）
7.学校現場での指導助言	2023年6月9日	富山大学教育学部附属小学校　公開授業研修会体育科（小6キャッチバレーボール・小2鬼遊び）共同研究者
8.学校現場での指導助言	2023年6月8日	富山大学教育学部附属中学校　令和5年度教育研究協議会保健体育科指導助言者（中2マット運動）
9.学校現場での指導助言	2023年6月1日から6月2日	富山県富山市立堀川小学校　第93回教育研究実践発表会体育科指導助言者（小6バレーボール・小5ロープ表現）
10.学校現場での指導助言	2022年10月27日	富山大学教育学部附属小学校　公開授業研修会体育科（小6ハンドボール）共同研究者
11.学校現場と大学の連携事業「出張授業」	2022年7月6日	高校2年生を対象とした体育理論（スポーツ文化）の授業（富山県立滑川高等学校）
12.学校現場での指導助言	2022年6月10日	富山大学教育学部附属小学校　教育研究発表会体育科（小5タグラグビー）共同研究者
13.学校現場での指導助言	2022年6月2日から6月3日	富山県富山市立堀川小学校　第92回教育研究実践発表会体育科（小5縄とびパフォーマンス・小4走り高跳び）指導助言者
14.学校現場と大学の連携事業「出張授業」	2022年5月31日	高校2年生を対象とした探求的な活動の講師（富山県立高岡南高等学校）
15.現職教員の内地留学生の指導	2022年5月～2022年8月	富山県教育委員会との連携事業において、富山県氷見市の小学校から内地留学でこられた小学校教諭に体育科の研究指導をした。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
16.学校現場での指導助言	2021年10月14日	富山大学人間発達科学部附属小学校　公開授業研修会体育科（小4　3on3ベースボール・小5キャッチバレーボール）共同研究者
17.学校現場での指導助言	2021年6月11日	富山大学人間発達科学部附属小学校　教育研究発表会体育科（小5連鎖交互とび・小4マット運動）共同研究者
18.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2019年8月17日～8月18日	学校体育研究同志会東京支部実技講習会ネット型球技分科会講師（明星学園小学校）
19.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2018年8月18日から8月19日	学校体育研究同志会東京支部実技講習会ネット型球技分科会講師（明星学園小学校）
20.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2018年4月28日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（春フェスタ）ネット型球技分科会講師（愛知淑徳大学）
21.学校現場と大学の連携事業「出張授業」	2017年12月	小学校6年生を対象とした健康教育（飲酒）の授業（広島県福山市立東小学校）
22.学校現場と大学の連携事業「出張授業」	2017年10月	高校１年生を対象とした体育理論（スポーツ文化）の授業（広島県立神辺旭高等学校）
23.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2017年8月26日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（たのスポセミナー）ネット型球技分科会講師（日本福祉大学）
24.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2017年4月29日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（春フェスタ）ネット型球技分科会講師（愛知淑徳大学）
25.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2015年5月17日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（春フェスタ）ネット型球技分科会講師（愛知淑徳大学）
26.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2014年5月11日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（春フェスタ）グループ学習分科会講師（愛知県立大学）
27.一般教員や学生を対象とした体育実技講習会講師	2013年8月18日	学校体育研究同志会愛知支部実技講習会（たのスポセミナー）グループ学習分科会講師（愛知県立大学）
28.現場教員との共同での実践研究	2011年2月～現在	現場教師が中心となっている保健体育教育研究サークルにおいて、保健・体育科教育の実践検討に継続的に参加してきた。定期的に実践報告会や研究会を開催し、現場教師の授業観察や実践分析を積極的に実施するとともに、研究成果を交流する機会をもった。
29.学校現場での運動部活動指導	2007年9月～2012年3月	愛知県稲沢市立稲沢中学校男子バレーボール部外部指導員
4 その他		
1.学校教育センター学科委員	2025年4月1日～	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科における教職課程に関連する業務の担当

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.RYT200ヨガ	2024年5月7日	
2.中学校教諭１種免許状（保健体育，平二五中一第五四号，愛知県教育委員会）	2023年9月30日	
3.高等学校教諭１種免許状（保健体育，平二五高一第八０号，愛知県教育委員会）	2023年8月31日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.縄とび運動教材「連鎖交互とび」の体育授業づくり：技のweb動画つき！	共	2023年3月	富山大学出版会.pp.192.（執筆箇所：「はじめに」ｐｉ，「第Ⅰ部連鎖交互とび	本書は、縄とび運動教材の1つである連鎖交互とびを教材とした体育授業づくりの方法や参考資料となる指導理論や歴史等を解説したものである。（編著者：佐伯聡史・玉腰和典、著者：松田匠・土合真祐・上原三十三・橋ケ谷拓未）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
			の体育授業づくり1～4節」pp.1-26,「第Ⅲ部小・中学校における連鎖交互とびの体育実践2，4節」pp.114-117，pp138-141,「第Ⅳ部縄とび運動と連鎖交互とびの教材研究2～4節,コラム⑤」pp.149-181,183）	
2.部活動学	共	2020年6月	ベースボール・マガジン社．pp.328.（執筆担当：10時間目「体育授業と運動部活動とをつなぐ」pp.131-143）	本書は、2017年12月に公表した研究を書籍化したものである。本研究では、体育科教育学（体育授業づくりとの接続）の観点から運動部活動の指導についての提案をおこなった。（編著者：神谷拓、著者：大野貴司・伊藤恵造・久保田治助・中村哲也・大内裕和・久我アレキサンデル・苫野一徳・玉腰和典・久保元芳・竹原幸太・安倍大輔・住友剛・田村公江・亀井明子・友田明美・中村浩也・小野田正利・中山弘之・高妻容一・川地亜弥子・釜崎太）
3.教育発達学の展開	共	2020年5月	風間書房．pp.363.（執筆箇所：第3部第17章「幼児期の遊び（健康）から体育の学びへ」）	幼児期の「健康」領域から児童期の体育分野へと、どのように学びが発展していくようカリキュラムが構成されているのかを検討した。幼小接続の観点から、幼稚園教育要領・学習指導要領、発達的特徴や運動能力の考え方、そして実践事例をふまえた指導の重点を提起した。（編著者：松永あけみ・水戸博道・渋谷恵、著者：緒方明子・中村敦雄・小林潤一郎・谷川夏実・宮崎眞・手塚千尋・辻宏子・小野昌彦・垣花真一郎・佐藤公・杉山雅俊・根本順子・鞍馬裕美・玉腰和典）
4.改訂版　初等体育科教育の研究	共	2018年4月	学術図書出版．pp.192.（執筆箇所：第2部第5章「ゲーム／ボール運動」pp.151-162）	本研究では、小学校のゲーム／ボール運動領域における学習指導方法を提起した。具体的には、ゲーム／ボール運動の特性とねらい、低・中・高学年における2017年改訂学習指導要領の内容や発達的特性、各発達段階における具体的な指導事例、ゲーム／ボール運動領域の指導原理を提起した。（編著者：木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤、著者：加登本仁・坂田行平・中西紘士・玉腰和典・菅尾尚代）
5.スポーツの主人公を育てる体育・保健の授業づくり－指導案の基本とプラン集－	共	2018年3月	創文企画．pp.212.（執筆箇所：第1部「子どもの学習集団について－異質協同の小集団学習－」，第２部「異質協同による小集団学習」pp.56-59，130-146）	本研究では、体育科教育における学習指導論として、学習集団論の基本原理と理論を活用した小学校・中学校の実践プラン（学習指導案）を提起した。（編者：学校体育研究同志会、著者：田中新治郎・丸山真司・黒川哲也・中瀬古哲・則元志郎・大貫耕一・竹内進・加登本仁・石田智巳・佐藤亮平・竹田唯史・近藤雄一郎・玉腰和典・中西匠・林俊雄・續木智彦・森敏生・神谷拓・平野和弘・矢部英寿・制野俊弘・伊藤嘉人・岨和正・安武一雄・簗田陽子）
6.対話でつくる教科外の体育：学校の体育・スポーツ活動を学び直す	共	2017年10月	学事出版．pp.176.（執筆箇所：第2章第1節「運動会の歴史」pp.28-39）	本研究では、運動会を中心とする体育行事の歴史的変遷を、自治、地域、思想形成という３つの観点から検討している。結果、いずれも国家的な統制が強化されていることを指摘している。その上で、震災下の実践をふまえ、自治や地域を大切にした体育行事のあり方が問われていることを提起した。（編著者：神谷拓、著者：玉腰和典・矢部英寿・久保田治助・中西匠・小山吉明・星野実・伊藤嘉人・石田智巳・制野俊弘・大谷澪・堀江なつ子）
2 学位論文				
1.体育科教育における戦術・技術認識の形成過程に関する研究	単	2018年3月21日	愛知県立大学，人間発達科学研究科，博士（人間発達学）	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1.小学校高学年におけるICTを活用した走り高跳びの事例検討－「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を視点として－（査読有）	共	2024年10月31日	富山大学教育学部紀要，3（1）：110-130.（著者：鳥山大輔・玉腰和典・佐伯聡史）	本研究は、小学校高学年におけるICTを活用した走り高跳びの実践事例をもとに、個別最適な学びと協働的な学びを一体化する授業づくりの方法について解明することを目的とした。結果、対象実践においては、「公平な目標設定」「効率的な運用に不可欠なICTツールおよび自作教具の活用」といった環境づくりや、「メイン教材の技術課題と関連づけられた複数の練習教材の設定」「自身の記録を可視化するための記録や動画の蓄積」といった教師の手立てが有効な方法となっていたことを分析した。
2.中学校体育におけるICTの活用方法に関する事例研究 －マット運動におけるJam Boardを使用した試技画像分析に着目して－（査読有）	共	2024年3月22日	富山大学教育学部紀要，2(2)：89-100.（著者：玉腰和典・佐伯聡史・福島洋樹・神野賢治・松田匠・鵜飼雅信・横谷悠斗）	本研究では、中学校体育におけるJam Board（Google for Education）を使用した生徒の試技画像分析による課題記述内容を分析して、学習指導方法の成果と課題を事例的に解明することを目的とした。結果、Jam Boardを活用した試技画像分析によって、約80%の生徒が自己の適切な課題を分析できていたことが明らかになった。また、その成果と課題について考察し、学習指導上の改善点を提示した。
3.幼稚園健康領域と小学校体育科保健領域の接続に関する研究－カリキュラムマップ作成の試み－（査読有）	共	2024年3月22日	富山大学教育学部紀要，2(２)：47-64.（著者：五代孝輔・玉腰和典）	本研究では、幼児期健康領域と小学校体育科保健領域の接続の仕方とその課題について、小学校におけるカリキュラム編成の観点から解明することを目的とした。幼稚園教育要領と学習指導要領を分析し、健康教育における幼小接続のカリキュラムマップを作成するとともに、幼稚園教諭へのインタビュー調査から、カリキュラムマップをふまえた幼小接続の課題を考察した。
4.小学校体育における戦術・技術認識の形成過程に関する事例研究（第 2 報） ―小学校 3 年生のホールディングバレーボール実践を対象にして―	共	2024年1月31日	日本福祉大学子ども発達学論集，(16)：85-98.（著者：玉腰和典・近藤ひづる）	本研究は、小学校中学年（3年生）のホールディングバレーボール実践における戦術・技術認識の形成過程の特徴を、インタビューや感想文の内容分析から解明することを目的とした。結果、次の4点を解明した。①【方法】と【方法に関する実態】が多く、有効な方法や方法の教え合い、成功した事実などが多くみられた。②最初に【方法】が多く記述され、その後、他の認識対象の記述数も増加していた。③防御の学習で【課題】と【課題に関する実態】が多く、学習のつまずきがみられた。④攻防の記述は、先行研究と同様の経過をたどった。
5.バレーボール教材における文化学習のための史的考察と実践プラン－攻防の相互関係に着目した通史的解釈をもとに－（査読有）	単	2022年10月25日	富山大学教育学部紀要，1(1)：81-103.	本研究は、バレーボールにおける実技学習と関連させた文化学習を実現するために、攻防の相互関係に着目した過去から現在までの特徴を史的考察した上で、実技と理論を関連づける体育理論の実践プランを提案した。
6.新型コロナウイルス感染症予防対策下における体育的行事の事例分析－小学校における保健学習を発展させた子ども主体で創る運動会に着目して－（査読有）	共	2022年3月15日	富山大学人間発達科学部紀要，16(2)：45-72.（著者：玉腰和典・制野俊弘・岨賢二）	本研究は、C小学校の実践を分析対象として、新型コロナウイルス感染症の予防対策下における体育的行事実践の実態解明を目的とした。結果、特徴として、子どもの生活的な願いや想いを運動会づくりの出発点にしていること、トータルな自治指導がなされていること、主体性発揮の基盤となるテーマづくりを重点的に指導していること、保健学習を発展させた自治内容を指導していることなどを解明した。
7.小学校体育における戦術・技術認識の形成過程に関する事例研究 －小学校５年生のホールディングバレーボール実践を対象にして－	共	2022年1月31日	日本福祉大学子ども発達学論集，(14)：81-94.（著者：玉腰和典・近藤ひづる）	本研究は、小学校高学年における戦術・技術認識の形成過程の特徴を解明することを目的とした。感想文の内容分析の結果、①戦術・技術認識が形成されていた実態、②特定の認識対象の記述が顕著に増減する山場や落ち込みがみられたこと、③攻防の相互発展的な指導系統が認識形成過程に影響を与えていたことを解明した。
8.高校体育におけるヨガ教材の授業づくりに関する事例的検討－グループでの創作発表を方法とする実践を対象として－	共	2022年1月11日	教育実践研究 ： 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要，16：51-68.（著者：玉腰和	本研究は、高校体育の実践事例の分析を通して、学校体育におけるヨガ教材の授業づくりの課題を解明することを目的とした。実践資料の分析、担当教師への半構造化インタビュー、感想文の内容分析の結果、7点の課題に整理することができた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
（査読有）			典・山本奈緒子）	
9.学校体育における地域スポーツの教材的価値－練馬区キャッチバレーボールに着目して－（査読有）	共	2021年10月22日	富山大学人間発達科学部紀要，16(1)：9-24.（著者：玉腰和典・田中紗良）	本研究では、生涯スポーツの実現に向けて、地域スポーツを学校体育へ導入していくために、練馬区キャッチバレーボールにはどのような教材的価値があるのかを解明することを目的とした。質問紙やインタビュー調査の結果、練馬区キャッチバレーボールの教材的価値を5点に整理した。
10.中学校体育におけるカリキュラム開発過程に関する事例研究－四海久富による3年間のカリキュラムづくりに着目して－	共	2020年3月	岐阜協立大学論集，(53)：71-88.（著者：久我アレキサンデル・玉腰和典・永沼祐介）	本研究では、学校での実践を基盤としたカリキュラム開発の事例を蓄積するため、中学校教諭である四海久富の実践を対象にして、複式学級における中学校3年間の体育カリキュラムの開発過程を解明した。結果、四海のカリキュラム開発過程においては、カリキュラムの大枠が決定される段階と、教師による独自のカリキュラムを創出していく段階がみられた。
11.小学校体育授業における戦術・技術認識の形成過程に関する事例研究―認識対象の変容過程に着目した感想文分析を通して―（査読有）	単	2018年3月30日	体育科教育学研究，34(1)：17-30.	本研究は、認識対象の一般的な特徴を述べた岩田靖の課題、実態、方法を分析枠組みとして、小学校高学年のフラッグフットボールの授業で収集された感想文を分析し、上位・下位の２グループの認識形成過程を解明した。結果、分析カテゴリーを再構築するとともに、単元において認識活動が活発化する２つの山場がみられた。
12.技能下位児童への水泳指導に関する研究－「浮くこと」を基礎技術とした小学校３年生の水泳実践から－	共	2018年1月13日	和歌山大学教育学部紀要，教育科学，68(1)：159-168.（著者：狭門俊吾・久我アレキサンデル・玉腰和典・本山司・本山貢）	本研究では、小学校３年生を対象とした水泳指導において、技能下位児童の技能習熟プロセスの分析を通して、技能下位児童における「浮くこと」を指導することの有効性を解明することを目的とした。実践分析の結果、「浮くこと」の前段階となる「呼吸法（息継ぎ）」の指導が心理的な不安感を解消する効果や「浮くこと」を習得する上で効果的であることが示唆された。
13.体育科教育におけるバレーボールの教材研究史(1)－学校体育研究同志会における生活体育時代の動向に着目して－	単	2017年1月31日	日本福祉大学子ども発達学論集，(9)：31-46.	本研究では、わが国におけるバレーボール教材研究史を解明するために、生活体育時代（1957～1962）における学校体育研究同志会の実践・研究動向を分析した。結果、民主的人間形成を目的として、教科体育でのグループ学習と教科外でのスポーツ大会づくりを関連させた、生活体育時代におけるバレーボールの実践研究の実態を解明することができた。
14.体育科教育における認識対象の構造的特徴に関する考察―出原泰明の実践を分析対象として―（査読有）	単	2017年	日本教科教育学会誌，39(4)：1-11.	本研究は、体育科教育における戦術・運動技術の認識に着目して授業実践レベルで問題となる認識対象の構造的特徴について解明した。結果、各授業において教師が目標とする認識対象は課題―実態―方法の３つの側面が存在し、これらが戦術・運動技術の各階層（戦略―戦術―運動技術）に位置づいた構造をもつことが解明された。またその構造的な特徴をモデル化して提起した。
15.幼児期における定位能力・分化能力の発達的特性：投・跳動作に着目して（査読有）	共	2016年	発育発達研究，(70)：36-47.（著者：加納裕久・久我アレキサンデル・玉腰和典・丸山真司）	本研究は、投・跳動作に着目し、幼児期における定位能力、分化能力の発達的特性を明らかにした。その結果、投動作に関するテストは男児の方が、跳動作に関するテストは女児の方が向上の段階を半年早く迎えることから男女差があることが推察された。また男女共４歳半頃に著しく向上する時期が認められた。
16.中学校「体育理論」における「キー・コンピテンシー」－中学校学習指導要領に着目して－	共	2015年1月	岐阜協立大学経営学部論集，(2-3)：37-46.（著者：伊藤嘉人・玉腰和典・久我アレキサンデル・加納裕久・丸山真司）	本研究は、中学校体育におけるDeSeCoキー・コンピテンシーを捉えるべく、キー・コンピテンシーの視点から中学校学習指導要領の学習内容を検討した。結果、学習指導要領における体育理論領域の学習内容ではリテラシーとして形成される「相互作用的に道具を用いる」カテゴリーに重きがあること等を解明した。
17.体育科教育における認識に関する研究の動向と課題（査読有）	単	2014年3月	愛知県立大学人間発達学研究，(5)：9-22.	本研究は、体育科教育において理論的・実践的な遅れがみられる認識に関する研究に寄与すべく、戦後の学習指導要領、体育科教育における認識に関する論議や研究動向を概観した上で、体育科教育における認識に関する研究の今日的な課題を明らかにすることを目的とした。結果、認識に関する基礎的研究として、認識対象と方法の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
18.東日本大震災後の運動会：学校の統廃合をめぐる教師、生徒、地域住民の「意志」の諸相	共	2013年1月	宮城教育大学紀要，47：163-185. （著者：神谷拓・伊藤嘉人・玉腰和典）	階層的構造とその形成プロセスを解明することが今日的課題になると提起した。 本研究では、東日本大震災によって甚大な被害をうけた宮城県の中学校で開催された運動会のフィールドワークを通して、学校の統廃合をめぐる教師、生徒、地域住民の「意志」を明らかにした。結果、この運動会において、教師、生徒、地域住民の「意志」はゆるやかに繋がっていたものの、生徒たちの「統廃合を受け入れるまでには至っていない」という「意志」が、他の立場では共有されていないことを解明した。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.小学校低学年「多様な動きをつくる運動遊び」における相撲教材の有効性ー「体のバランスをとる動き」と「力試しの動き」に着目してー	共	2024年6月30日	日本体育科教育学会第29回大会（於：立命館大学大阪いばらきキャンパス）	本研究は、小学校低学年「体つくりの運動遊び」の「多様な動きをつくる運動遊び」における相撲教材の有効性を解明することを目的とした。結果、診断的・総括的評価はほとんどの項目で有意な差がみられ、形成的授業評価も総合評価2.77以上の大変高い評価であった。主効果が期待される筋力、筋パワー、敏捷性、動的平衡能力、柔軟性も有意な差がみられた。これらの結果から相撲教材の有効性を解明した。 （発表者：鳥山大輔・玉腰和典・加納裕久）
2.中学校体育におけるICTの活用方法に関する事例研究 ーマット運動におけるJam Boardを使用した試技画像分析に着目してー	共	2023年12月10日	2023年度北陸スポーツ・体育学会（於：石川県政記念　しいのき迎賓館）	本研究では、中学校体育におけるJam Board（Google for Education）を使用した生徒の試技画像分析による課題記述内容を分析して、学習指導方法の成果と課題を事例的に解明することを目的とした。結果、約80%の生徒が自己の適切な課題を分析できていたことが明らかになった。 （発表者：玉腰和典・佐伯聡史・福島洋樹・神野賢治・松田匠・鵜飼雅信・横谷悠斗）
3.体育嫌いを生起させないための対応についての考察	共	2023年12月10日	2023年度北陸スポーツ・体育学会（於：石川県政記念　しいのき迎賓館）	本研究では、体育ぎらいの先行研究から、体育ぎらいの要因に関連する質的データを抽出し、内容分析方法を使用して分析した。結果、体育ぎらいの要因として、教師、生徒、教材、関係性の4点があげられた。 （発表者：横谷悠斗・玉腰和典）
4.中学校体育における連鎖交互跳びの事例研究	共	2022年10月	日本スポーツ教育学会第42会大会（於：流通経済大学）	本研究では、中学校体育における3人連鎖交互とびの学習成果を、形成的授業評価・運動有能感・観察的動作評価から解明した。 （発表者：玉腰和典・佐伯聡史・松田匠・土合真祐）
5.「体育科の見方・考え方」の特徴と課題（２）	単	2021年9月	第47回日本教科教育学会全国大会（於：大阪教育大学）	本研究では、実践的な動向と関連づけながら、学習指導要領の定義に依拠する定義探究型アプローチに分類した「体育科の見方・考え方」の特徴と課題を解明した。
6.体育におけるグループ学習の変容過程－「学習としての評価」を中心として－	共	2021年9月	第47回日本教科教育学会全国大会（於：大阪教育大学）	本研究は、体育授業におけるグループ学習の変容過程を学習としての評価の観点から分析し、その特徴を解明した。 （発表者：森敏生・石田智巳・玉腰和典・丸山真司）
7.体育授業における技術認識と集団認識の変容－グループ学習の事例を手がかりに－	共	2020年11月	日本スポーツ教育学会第40回学会大会（於：大阪体育大学）	本研究では、体育授業のグループ学習における技術認識と集団関係の変容過程に着目し、授業分析から認識形成と集団の教え合いの関係性を解明した。 （発表者名：森敏生・丸山真司・石田智巳・玉腰和典）
8.体育授業における学習課題の対象化と共有化：学習活動の創造性を視点として	共	2019年9月	日本スポーツ教育学会第39回大会（於：早稲田大学）	本研究では、体育授業において子どもたちの学習活動の直接的な対象である学習課題がどのように創出されるのか、その特徴を解明した。 （発表者：森敏生・丸山真司・石田智巳・玉腰和典）
9.体育科の見方・考え方」の特徴と課題	単	2018年9月	日本教科教育学会第44回大会（於：日本体育大学）	本研究では、新学習指導要領で提起された「体育科の見方・考え方」の特徴とその課題について解明した。
10.オリンピック教育の内容構成に関する研	共	2017年9月	日本教科教育学会第43回大会（於：	本研究では、保健体育科「体育理論」領域におけるオリンピック教育の内容構成について、リテラシー論・シティズンシップ教育論を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
究：オリンピック・リテラシー、シティズンシップ教育論を手がかりに			北海道教育大学）	もとに解明した。 （発表者：伊藤嘉人・玉腰和典・丸山真司）
11.体育教師のカリキュラム開発に向かう実践的知識の形成－変容プロセス－小学校教諭Aのライフヒストリー・アプローチ	共	2017年9月	日本教科教育学会第43回大会（於：北海道教育大学）	本研究では、ライフヒストリー・アプローチから体育容姿の実践的知識の形成・変容過程について解明した。 （発表者：丸山真司・久我アレキサンデル・加納裕久・玉腰和典・伊藤嘉人）
12.体育授業における戦術・技術認識の形成過程に関する研究－感想文分析を通して－	共	2016年10月	日本教科教育学会第42回大会（於：鳴門教育大学）	本研究では、小学校高学年のフラッグフットボールの授業で収集された感想文の内容分析を実施し、上位グループの認識形成過程を解明した。 （発表者：玉腰和典・丸山真司）
13.体育授業における戦術・技術認識の形成過程に関する研究（第２報）－感想文分析を通して	単	2016年9月	日本教科教育学会第43回大会（於：北海道教育大学）	本研究では、第１報で課題となった，認識対象間の関係性を解明するために、認識上位者の感想文を質的に分析した。
14.体育科教育における戦術・技術の認識対象間の関係性について－球技教材の感想文分析をとおして－	共	2015年8月	第66回日本体育学会（於：国士舘大学）	本研究では、体育授業における認識対象間の関連性を小学校５年生のフラッグフットボールの授業で収集された感想文の分析によって解明した。 （発表者：玉腰和典・丸山真司）
15.体育科教育の運動学習場面における知識の獲得に関する研究	共	2014年8月	第65回日本体育学会（於：岩手大学）	本研究では、体育科教育の運動学習場面における知識の獲得に関する特徴を解明した。 （発表者：玉腰和典・丸山真司）
16.体育科教育における運動技術学的認識の形成を促す教師の働きかけに関する研究	共	2013年11月	第61回東海体育学会（於：愛知教育大学）	本研究では、体育科教育において形成すべき中核的な認識である運動技術学的認識に着目し、筆者による認識対象の構造的なモデルを用いて、認識形成を促す教師の働きかけを解明した。 （発表者：玉腰和典・丸山真司）
17.体育科教育における運動技術学的認識の構造に関する研究	共	2013年8月	第64回日本体育学会（於：立命館大学）	本研究では、体育授業における運動技術学的認識の構造を明らかにするために、運動技術に関する実態・課題・方法・因果認識の関係を検討した。 （発表者：玉腰和典・丸山真司）
18.東日本大震災後の学校体育の復興－宮城県の学校の事例－	共	2012年8月	第8回日独スポーツ科学者会議（於：Münster Universität）	本研究は、事例報告として、津波によって壊滅状態になった宮城県の学校を取り上げ、その現状とどのように学校体育を復興してきたのかについて解明した。 （発表者：丸山真司・玉腰和典・伊藤嘉人・神谷拓）
19.体育における技術認識－出原泰明を手がかりとして－	共	2012年8月	第63回日本体育学会（於：東海大学）	体育における「技術認識」（運動技術学的認識）の基本的特徴を明らかにするために、「技術認識」を媒介とした学習集団論を展開し、広く体育実践に影響を与えた出原泰明を分析した。 （発表者：玉腰和典・丸山真司）
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.幼児期の子どもたちにジェンダー観をどのように育むか－光本豊治さん（保育士）へのインタビュー－	共	2024年1月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(330)：70-71.	幼児期の子どもたちにジェンダーの観点をふまえ、自分らしさを育む保育の方法や留意点について、保育現場で様々な実践をしている保育士へインタビューした成果を報告した。 （著者：玉腰和典・五代孝輔）
2.体の発育と健康　これから成長する私たち	共	2023年10月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(329)：68-69.	小学校4年生の保健学習「体の発育と健康」の単元において、健康科学の学習内容を重視して、体と心の成長速度の差異について理解させ、大人へと成長する自分に喜びや期待がもてるようになることをねらった実践を報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
3.科研費研究成果報告書「体育実践における創発的な学習活動の指導と評価の一体化」	単	2023年6月	森敏生編，2018年度～2023年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般），研究課題番号18K02683，研究成果報告書. （執筆箇所：「第1章第1節　学習指導要領改訂の方向」pp.1-6、「第5章第1節スポーツの技術・戦術の対象化と認識活動の指導」pp.43-47、「第5章第4節体育の教授・学習活動と教具づくり」pp.55-58）	（著者：佐野朋子・玉腰和典） 本報告は、科研費研究の成果と課題を整理したものである。執筆担当箇所では、主に認識形成の観点から体育授業における創発的な学習の構造を提起した。 （著者：森敏生・石田智巳・玉腰和典・丸山真司）
4.体育における幼保小接続期カリキュラムの編成に向けて	共	2022年12月	大修館書店、体育科教育、70(12)：22-25.	本研究では、幼児期「健康」領域と小学校「体育」の接続をめざして、幼小共通で実施されている教材レベルでの接続のあり方を提起した。 （著者：玉腰和典・五代孝輔）
5.体育科の特質に応じた「見方・考え方」を〈内側からの変革〉の契機とする	単	2021年10月	大修館書店，体育科教育，69(10)：36-40.	本研究は、「体育科の見方・考え方」の実践的な動向を分析し、3つのアプローチに類型化した上で，定義探究型アプローチに着目してその課題を提起した。
6.「運動文化における平和」を実現する力をつける－グループ学習と平和・民主主義－	単	2021年8月	学校体育研究同志会第162回全国研究大会（広島大会），pp.6. ＊オンライン資料のためページ割り当てなし。	戦後体育における平和や民主主義の議論を概観しつつ、佐貫浩の「方法としての平和」論を援用して、保健体育科教育における平和教育の視点を3つに整理した。その上で、森敏生の論を概観しながら、グループ学習で「方法としての平和」を学ぶ展望について提案した。
7.『わかる』『できる』を通して結びつく集団	共	2021年7月	学校体育研究同志会，運動文化研究，(38)：91-95. （執筆箇所：「近藤ひづる実践(愛知・小 3・ホールディングバレーボール)」，p.94）	本報告は、第160回全国研究大会（冬大会）における学習集団づくりの分科会で発表した内容を報告したものである。体育授業におけるグループ学習の方法を事例分析し、出原泰明の理論から実践的な成果を解明した。 （著者：加登本仁・玉腰和典）
8.グループ学習のポイント（中・高）：グループ学習で運動文化の民主主義（対話・合意・自治）を育む	単	2019年4月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(311)：34-37.	本研究では、中学校および高等学校におけるグループ学習の指導のポイントを解説した。具体的には、自治的学習集団と生成的学習集団の両面から学習集団づくりの課題を把握していくことの重要性を強調した上で、それらをカリキュラムとしてどのように構想するのか、また具体的な体育授業づくりのポイントについて解説した。
9.教材・教具博物館	共	2018年11月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(309)：46-51. （執筆箇所：ボール運動の教材・教具，p.47）	本稿では、様々な発達段階における教材・教具の工夫を写真つきで紹介している。ボール運動の教材・教具を紹介した。 （著者：久保健・玉腰和典・口野隆史・大宮とも子・竹川幸介）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
10.教科内容研究をベースにした「体育科の見方・考え方」	単	2018年11月	広島大学附属小学校学校教育研究会，学校教育，(1215)：14-21.	本研究では、新学習指導要領が提起した「体育科の見方・考え方」の可能性と課題について検討した上で、実践事例を用いながら、教科内容研究をベースにした「体育科の見方・考え方」の具体的な内容について考察した。特に、具体的な内容を考察する際は、現代的な課題であるスポーツを「つくる」側面に着目していくことが重要となることを提起した。
11.各発達段階に応じた「かかわり」の中身－小学校から中学校までのグループ学習の実践から－	単	2018年11月	大修館書店，体育科教育，(66)11：46-49.	本研究では、現代における子どもたちの実態をふまえた体育実践を展開する際、どのように発達段階に応じた「かかわり」をめぐる課題が生起しているのか、そしてそれらをどのようにグループ学習によって解決していこうとしているのかを、小学校から中学校までの実践記録をもとに考察をした。
12.体育科教育における認識－戦術・技術認識の形成過程に着目して	単	2018年11月	大修館書店，体育科教育，66(11)：68-69.	本研究では、筆者が遂行した一連の体育科教育における認識に関する研究の成果と課題について報告した。具体的には小学校高学年を対象とした認識形成過程の分析結果および考察について解説した。
13.体育の授業と運動部活動とをつなぐ	単	2017年12月	ベースボール・マガジン社，コーチング・クリニック，32(2)：74-77.	本研究では、体育科教育学（体育授業づくりとの接続）の観点から運動部活動の指導についての提案をおこなった。提案は学習活動を対象化して自治的な運営を実施すること、組織づくりも学習の対象にすること、物品管理などスポーツの社会的条件も学習の対象にすることである。
14.近年のグループ学習分科会の研究動向の覚書～「集団の質の高まりをどう実証するのか」～	単	2016年7月	学校体育研究同志会第152回全国研究大会提案集，230-233.	本研究は、アメリカ型のグループ学習批判を契機とするグループ学習の評価研究の動向を概観したものである。結果、集団の質を評価するための４つの分析視点を整理し、これらを使用した実証的な研究が課題となることを提起した。
15.小学校でネット型球技（ホールディングバレーボール）をやってみよう－攻防の相互発展的な指導系統の確立をめざして－	共	2015年12月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(297)：1-3.	中学生を対象にしてバレーボールにおけるネット際の攻防戦術を学習させるために開発されたホールディングバレーボールを小学校版に改変し、その指導系統を探求した成果を報告した。3年間の実践計画を構想し、そのうちの1年目に実施された小学校4年生の実践の成果をふまえ、実践の方法や展開を提起している。 （著者：玉腰和典・久我アレキサンデル）
16.小林実践「ルールを変えて，関係を変える」の分析	単	2015年8月	学校体育研究同志会若者全国研究大会長編実践記録・分析集③，60-69.	本研究は、東京都の小学校で実施された低学年のサッカー実践（じゃまじゃまサッカー）の分析をしたものである。子どもの関係を変化させるためには、戦術や技術をめく゛る自治的な集団活動をとおした子と゛もたちの能力観の変革か゛課題となることや、「わかる中身」を明確化することか゛課題となることを提起した。
17.小学校高学年鉄棒運動－「習熟と認識の変革過程」を学習の対象にする－	単	2014年12月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(287)：34-37.	本研究は、1980年代において体育の学習集団論に影響を与えた小学校高学年の鉄棒運動の実践を分析した。実践の背景をふまえつつ、異質なでき具合の子どもたちに徹底的に技術認識を言語化し、次の課題を議論させていくことで子どもたちが対等平等な関係性の中で学習を展開していった特徴について検討した。
18.進化を続ける半崎実践	共	2014年7月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(283)：75-76. （執筆箇所：第５節「MさんとHくんのいる3班を観察して」）	本研究では、2014年に愛知県の小学校でおこなわれた小学校４年生のフラッグフットボールの授業を観察し、分析した。１グループの協同的学習に着目し、リーダーの組織的力量を形成する上での課題を提起した。また、協同的学習においてはワンマンプレーを許容させないルール設定や教え合いの必然性をうむ学習条件を設定することが課題となることを提起した。 （著者：堤吉郎・半崎寛之・玉腰和典）
19.仲間とともに	共	2014年1月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(278)：50-55. （執筆箇所：第１節「はじめに」p.50，第４節「グループ学習プロジェクト」・第５	本研究では、2013年に愛知県の小学校でおこなわれた４年生のフラッグフットボールの授業を共同研究した取り組みを報告した。特に学習集団を組織することのできなかった原因を集団的な検討の中で明らかにし、次の実践者の課題を見つけ出していった過程をおうことで、教師の成長プロセスを描き出そうとした。 （著者：玉腰和典・堤吉郎・半崎寛之）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			節「終わりに」pp.54-55)	
20.認識の視点から合意形成を評価する	単	2013年7月	学校体育研究同志会第146回全国研究大会提案集，265-266.	本研究は、認識形成とグループ学習の相即的関係を述べた上で、グループ学習における合意形成の対象を認識の階層的構造をふまえて具体的に把握していくことの必要性や、そのことによって合意形成の質を評価していく可能性について提起した。
21.図書紹介（今福龍太・鵜飼哲編「津波の後の第一講」岩波書店）		2012年10月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(265)：45.	体育関係者を読者とする雑誌において、震災後の教育を考えるための1冊として、震災後に再考をもとめられる人間の生と自然（生命の道理）、知や学問と社会、原発事故やその問題について、広く問いを投げかける書籍を紹介した。
22.マスメディアは震災後のスポーツをどう報じたのか	単	2012年10月	学校体育研究同志会，たのしい体育・スポーツ，(265)：30-33.	本研究では、混乱状況にあった東日本大震災発生後，マスメディアがどのようにスポーツを報じたのかを解明するために、全国紙と東北の地方紙を対象に震災発生後1カ月間の紙面を分析した。結果として、発災当初は東北の地方紙には「スポーツの力」が十分に届いていなかったことや批判の記事があがったプロ野球の動向に対し、選抜高校野球には「スポーツの力」が積極的に見出されていたことなどを解明した。
23.震災を乗り越える力―浜市小学校の教師集団と渡辺孝之―	共	2012年7月	学校体育研究同志会，運動文化研究，(29)：54-59. （担当箇所：第１～４節「東日本大震災と浜市小学校」「浜市小学校の教師集団」「浜市小学校の渡辺孝之」「浜市復興を願って」，第６節「おわりに」pp.54-58)	本研究では、東日本大震災で甚大な被害をうけた浜市小学校の教師集団にインタビューし、震災下の迅速かつ適切な対応を可能にした背景を、リーダー的存在であった渡辺孝之の役割に着目して考察した。結果、浜市小学校の教師集団は、かねてより地域とつながる学校運営や子どもを中心とした教職員の同僚性（連携体制）の構築を大事にしていた背景を解明した。 （著者：玉腰和典・丸山真司）
24.坂井実践の特徴と課題	共	2011年12月	大修館書店，体育科教育，59(12)：28-31.	本研究では、小学校４年生のフラッグフットボール実践における、教師による指導の特徴を、単元構想や感想文から分析した。分析結果として、実践者の「技術学習を通して集団づくりに迫る」という課題が達成されている一方で、グループを唯一タッチダウンできなかったAの存在に気づかせるようなゲーム分析や感想文への書き込み指導が少なかったことを解明した。 （著者：神谷拓・玉腰和典）
６．研究費の取得状況				
1.体育科教育における思考と協同を一体的に促進する学習指導モデルの構築	単	2025年4月～2028年3月	科学研究費助成事業基盤研究（C）	本研究は、現代的教育課題である主体的・協同的な学びの生成を課題解決学習に焦点をあて、体育科教育における思考と協同を一体的に促進する学習指導モデルを構築することを目的とする。思考力の高まりは、知識の構造化や思考スキルの観点から指標を検討し、協同的な学習方法によって他者と相互作用しながら思考力を高める学習指導方法を実証的に研究する。
2.分析ソフトを活用した体育授業研究の推進	共	2023年8月～2024年3月	富山大学学長裁量経費（教育研究）	本研究は、保健体育科教育において、分析ソフトを活用した授業研究を遂行することで、授業方法についての実証的な成果を解明することを目的とする。研究内容としては、中学校保健体育における学習者の記述内容の分析からICTの活用方法についての成果と課題を解明する。また、授業観察法や動作分析法のソフトを活用して授業分析の研修会を開催し、附属学校のICTの活用方法を検討する。 （富山大学附属学校合同プロジェクト保健体育科目グループ、代表：玉腰和典、共同研究者：松田匠・鵜飼雅信・土合真佑・齊藤嵩之ほか）
3.体育科教育における戦術・技術認識の形成過程における思考スキルの実証的解明	単	2022年4月～2025年3月	科学研究費助成事業若手研究	本研究は、体育科教育における戦術・技術認識の形成過程における思考スキルの実証的解明を目的として、以下の３つの課題に着手するものである。まず、体育科教育における戦術・技術学習で獲得すべき思考スキルを検討し、分析枠組みを構築する。次に思考スキルのカテゴリーを使用した質的分析を実施する。その結果から、認識

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
4.体育科教育における戦術・運動技術に関する認識形成過程の理論モデルの構築	単	2019年4月～2023年3月	科学研究費助成事業若手研究	形成過程における思考スキルの活用を構造的に解明する。本研究は、内容分析方法を使用した感想文分析に事例研究を蓄積することで、体育科教育における戦術・技術認識に関する認識形成過程の理論モデルを構築することを目的とした。結果，課題・課題に関する実態・方法・方法に関する実態の4つの対象を相互関係として把握し、学習活動によって、認識が豊富化されているモデルを構築した。
5.体育実践における創発的な学習活動の指導の評価の一体化	共	2018年4月～2023年3月	科学研究費助成事業基盤研究(C)（一般）	本研究は、体育科教育における学習評価論の刷新につながる変容的評価の位置づけと役割を明示し、変容的評価を実装した授業をデザインする原則的なな方法を解明することを目的とするものである。学習としての評価を観点とすることで、学習と評価が連動し、変容的評価につながるものとなる。本研究では、学習活動を対象化する体育実践から変容的評価のあり様を改名した。（代表者：森敏生、共同研究者：丸山真司・石田智巳・玉腰和典）
6.体育科教育固有の認識形成に関する教授学的研究　－運動技術学習場面に着目して－	単	2014年4月～2016年3月	日本学術振興会特別研究員奨励費（DC2）	本研究は、教科教育学の観点から教科の独自性に関わる認識研究を発展させるため、運動技術に着目して体育科教育固有の認識形成の特徴を教授学的方法から解明することを目的とした。結果、戦術・技術認識の階層的構造モデルを構築し、その分析枠組みを活用した感想文分析によって、認識形成過程の特徴を解明した。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2019年9月～2021年8月	学校体育研究同志会編『たのしい体育・スポーツ』編集委員長
2.2019年7月～現在	日本スポーツ教育学会会員
3.2017年9月～2021年8月	学校体育研究同志会全国常任委員会
4.2015年9月～現在	日本教科教育学会会員
5.2013年10月～2024年1月	学校体育研究同志会編『たのしい体育・スポーツ』編集委員
6.2012年5月～現在	日本体育科教育学会会員
7.2012年5月～現在	日本体育・スポーツ・健康学会（旧：日本体育学会）会員
8.2011年2月19日～現在	学校体育研究同志会会員